

**令和3年度 第1回  
小中学校の児童生徒の静岡茶の愛飲の促進に関する県民会議**

**日時 令和3年11月15日(月)10:00~12:00**

**会場 県庁別館7階第2会議室A**

**I 開会・挨拶・会長の専任等**

**1 開会 司会・遠藤和久 経済産業部農業局長**

録音自分 6.32

皆さん、おはようございます。定刻となりましたのでただいまより令和3年度第1回小中学校の児童生徒の静岡茶の愛飲の促進に関する県民会議を開催いたします。私は本日司会進行を務めます農業局長の遠藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の委員の皆様の出席状況について御報告いたします。当県民会議委員13名のうち11名の皆様に御出席をいただいております。本日の審議会は小中学校の児童生徒の静岡茶の愛飲の促進に関する県民会議規則第6条第2項の規定による定足数の過半数を満たしておりますので、そのことを御報告申し上げます。また県の情報提供の推進に関する要綱第2の規定に基づきすべて公開といたします。本日の傍聴者は1名でございます。今回御出席の委員の皆様また県側の出席者につきましては、出席者名簿の通りでございます。

委員の皆様は任期満了に伴い新たに選任させていただきました。その結果4名の方が新たに委員に御就任をいただいておりますのでご紹介いたします。

函南町教育長の久保田浩子様におかれましては町教育長会から御推薦をいただきました。浜松市立豊岡小学校栄養教諭の平賀晶子様におかれましては静岡県学校給食栄養士会から御推薦をいただきました。静岡県農業経営士協会茶部会長の西原睦実様におかれましては同会から御推薦をいただきました。静岡県PTA連絡協議会副会長の天城真美様におかれましては同会から御推薦をいただきました。新たに委員になられた皆様どうぞよろしくお願いいたします。

**2 あいさつ 静岡県経済産業部細谷勝彦農林水産担当部長**

それでは開会にあたりまして静岡県経済産業部細谷農林水産担当部長から御挨拶申し上げます。

(細谷勝彦 静岡県経済産業部農林水産担当部長)

皆さん、おはようございます。農林水産担当部長の細谷と申します。どうぞよろしくお願いたします。この会議でございますが、小中学校の児童生徒の静岡茶の愛飲の促進に関する会議ということで、条例に基づく会議となっております。

この静岡茶の愛飲の条例ですが、この目的というところでですね、お手元に資料が配られているかとは思いますが、児童生徒の静岡茶を飲む機会及び児童生徒に対する静岡茶の食育の場を提供することにより静岡茶の愛飲を促進するというのがこの条例の目的となっております。食育と茶を飲む機会により愛飲を促進するという目的です。

じゃあ、愛飲を促進するというのはどういうことかということなんですが、何故、愛飲を促進していくのかということところが、食育それから次の第2条のところ食育の目的の中にも入っておりますが、本来であれば、児童生徒さんの健康、あるいは心の発達、こうしたものに静岡の茶を飲む習慣が定着していくことが役立つであろうと、いうことでこの静岡茶の愛飲を児童生徒さんに促進しているということでございます。

で、愛飲とはどういうことかということも条例の中にある「静岡茶を習慣的に飲むことですよ」というふうに規定されております。従いまして、静岡茶を習慣的に飲んでいくことが児童生徒さんの心と体の発達に役に立つであろうということでご我々、こうして取り組んでいるところでございます。

こうしたことによってですね、学校での愛飲の機会というのは、提供という意味ではだんだん取り組んでいただける学校が増えてきておりますが、習慣という意味ではですね、なかなか定着はこれからというふうに考えております。ここから定着まで持っていくにはやはり児童生徒さんへのお茶の効果というのをですね、少しデータと言いますか、エビデンスと言いますか、そうしたもので先生方、あるいは御父兄の皆さんに、客観的に理解してもらうという取り組みも今後は必要なかなと思っておりますので、県といたしましてもですね、そうしたデータあるいはエビデンス、そうしたものをですね、できるだけそろえながら愛飲を促進していきたいというふうに考えております。

本日はですね、昨年度の会議で皆様方からいただきました意見あるいは要望、そうしたものを取り入れて本年度に取り組んでいる内容、それから今後の取り組みについて、いくつか御提案を申し上げたいと考えております。時間が短く限られておりますが、皆様から忌憚のない御意見を頂けることお願い申し上げます。本日はどうぞよろしくお願いたします。

12. 57

### 3 会長の選任

(司会・遠藤和久 経済産業部農業局長)

ありがとうございました。前回までは都市教育長協議会の会長であります村松様に本会議の会長をお願いしておりましたが、委員の皆様は新たに選任をさせていただきましたので、本会議もあらためて会長の選任をお願いしたいと思います。会長は県民会議規則第 5

条第2項により委員の互選によって定めるとしておりますので、この場で会長を御推薦いただきたいと思います。それではどなたか御推薦をいただけますでしょうか。

(石川和弘 静岡県経済農業協同組合連合会常務理事)

はい。

(司会・遠藤和久 経済産業部農業局長)

お願いいたします。

(石川和弘 静岡県経済農業協同組合連合会常務理事)

この会議ですすね、検討してまいりましたが、すべての事項が教育現場で取り組みをされているというのでございますから、教育現場に詳しい方、しかるべき地位のある方をお願いしたいなと思っております。まず磐田市の方で非常に早くから全公立小中学校でお茶の実際の指導などをするというのでございますし、熱心に愛飲に取り組んでいただいていますことを踏まえ、引き続き村松会長にですすね、都市教育長協議会の村松会長に委員長を続けていただけないと思っております。以上でございます。

(司会・遠藤和久 経済産業部農業局長)

ありがとうございます。村松委員が会長に適任ではないかのご発言がございましたが、いかがでしょうか。

<拍手>

(司会・遠藤和久 経済産業部農業局長)

ありがとうございます。引き続き村松委員に会長をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

#### 4 会長就任あいさつ

それでは村松会長から御挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(村松啓至会長・静岡県都市教育長協議会会長(磐田市教育長))

皆様、こんにちは。いま御推薦をいただきました都市教育長協議会会長の村松と申します。もとより力はありませんけれども、皆様方の御協力を得て進めてまいりたいと思います。

皆様方におかれましては各分野で、先ほど部長さんからの話もありましたように、愛飲の促進に御尽力をいただきましてほんとにありがとうございます。茶葉の提供や講座の開

催、それからさらには食育カリキュラムの作成等ですね、細部にわたる内容、それからイベントの開催など、着実な進展が見られたのではないかなという風に思います。

そういう中でですね、大変、磐田市の方も、コロナ1年半、2年ですね約、大変苦しい思いをしてまいりました。磐田茶振興協議会の方々に集まっていただいて、今年度活動状況はどうだったかということでお話しをいろいろ聞いたんですが、やはりコロナで学校を訪問できない、そういうパターンが多かったようです。

そういう中でですね一つ、今日持って来ました。これです。活動が出来なかったので代わりにこれを使って、子供たちにこれを配布して、フィルターインボトル・磐田茶、中にしっぺいのキャラクターが描いてあるんですが、大変これを分けてですね、これをいま毎日使っている学校もあります。これ高くしてすべての子供に配布することが出来なかったんですが、こういう形で磐田茶振興協議会の方々も、今コロナ禍の中でできる範囲で頑張っていたいただきたいということで、ありがたいなと思いました。

先ほど部長さんからも話がありましたように、愛飲の意味、また児童生徒へのいかに意識を向上させていくか、また保護者もそうですね、印刷物等をわけていただきまして、1つのポイントは何かと言いますと、やはり日常性、日常性、これは通年でですね、そういう習慣…習慣化させることであると、それから2つ目はやはり発信ですね。発信。もう県の方でも、事務局の方でも、本当に一生懸命頑張っていたらと思っています。お茶の良さや木苗教育長がこの会で話しをしていただいたやはり健康への寄与度ですね、そのへんのところが重要にポイントになるなど、改めて思うところでございます。

本日、子供たちの意識向上、保護者への意識向上に向けてですね、いろんなご意見を頂けるとありがたいなと思っています。本日はよろしく申し上げます。

18 16

## II 議事

(司会・遠藤和久 経済産業部農業局長)

ありがとうございました。それでは早速、議事に移りたいと存じますが、本日の審議は小中学校の児童生徒の静岡茶の愛飲の促進に関する条例第6条の規定に基づき開催するものであります。ここからの議事進行は県民会議規則第6条第1項の規定により会長にお願い致します。村松会長様、どうぞよろしくお願ひいたします。

(村松啓至会長)

それではよろしくお願ひします。大変短い時間ですのでいろんな意見を出していただくとありがたいなと思います。委員の皆様方の協力により議事の円滑な進行をしていきたいなという風に思いますのでよろしくお願ひいたします。

## 1 「小中学校におけるお静岡茶の食育と愛飲の促進について」—事務局（小林栄人お茶振興課長）の説明

それでは早速ですが、「小中学校におけるお静岡茶の食育と愛飲の促進について」事務局から説明をお願いいたします。

### （小林栄人・お茶振興課長）

お茶振興課長の小林でございます。それではですね、お手元の資料1によりまして「小中学校における静岡茶の食育と愛飲の取り組みについて」ご説明を申し上げます。失礼します。着座にて御説明いたします。

### （1）説明項目（資料1頁）

まず1頁目をお開き下さい。私からはまず昨年度の県民会議でですね、いただきました御意見を初めに御説明し、その後本年度の取組状況、そして今後の取組について御説明をいたします。

### （2）令和2年度県民会議の結果—静岡茶の愛飲の定着に向けた主な意見（資料2頁）

2頁目をお開き下さい。昨年度の県民会議では、主に5つの御意見をいただきました。

まず1つ目といたしまして、茶産地以外の学校でもPTA主体などでお茶講座ができるようなそうした体制作りが必要である、という御意見をいただきました。

2つ目は愛飲の取組が難しい学校や御家庭の要因を確認し対応していくこととございます。

3つ目といたしまして、地域によって文化や風土が異なるため保護者の方々に丁寧に説明し御理解をいただくこと。

4つ目といたしまして、静岡におけるお茶の位置付けについて、学問的な側面からも教育を行うこと。

5つ目としまして、茶業者の方々と連携して、継続した取組を行っていくこと。

の、5つの御意見をいただきました。

### （3）児童生徒向け静岡茶講座の実施（資料3頁）

こうした御意見を踏まえまして、本年度、コロナ禍の中で様々な活動を行っておりますので、その取組状況について御説明を申し上げます。3頁をお開き下さい。

1つ目の取組としまして、児童生徒向けの静岡茶講座の実施でございます。ご意見の①、④、⑤を踏まえまして、茶産地以外の地域を中心ということで、本年度は東部、伊豆地域の小中学校や特別支援学校を対象にJ A南駿の営農指導員の方々などにも御協力をいただきまして、おいしいお茶の淹れ方などについて講座を実施しております。

#### **(4) 食育担当者向け講習会の開催（資料4頁）**

続きまして4頁をお開き下さい。2つ目の取組は食育担当者向けの講座の開催でございます。日本茶インストラクターなどの資格を持っている栄養教諭の方々に講師を務めていただき、11月から12月にかけて、複数の会場で計8回、食育担当教諭を対象としました講座を実施してまいります。講座は模擬授業形式で実施し、お茶の基礎的な知識やおいしいお茶の淹れ方などについて実習を行うこととしております。

#### **(5) 県内全ての小中学校へのお茶の提供（資料5頁）**

次に5頁をお開き下さい。県内の全小中学校へのお茶の提供についてでございます。昨年度に引き続き今年度も経済連やJ A・県茶商組合などの皆様が国の事業を活用いたしまして県内の全ての小中学校・特別支援学校の児童生徒に静岡茶を提供していただきました。お茶を配布する際には、お手元の資料3、後程御確認をいただければと思いますけれども、お便りを添付いたしまして、お茶の淹れ方をわかりやすく紹介するとともに、水筒にお茶を入れて学校に持参する取組も、御家庭にも呼び掛けたところでございます。

#### **(6) 県内小中学校へのチラシの配布（資料6頁）**

次に6頁をお開き下さい。こうしたお茶を配布する際に、食育の授業で活用していただけるように、指導の事例でございますとか、お茶に関する様々な情報を取りまとめた資料を各学校に配布を行いました。現在、教職員向けのデジタル教材や児童生徒向けのデジタル教材を作成しているところであり、教材が完成次第、各学校に配布を行っていく予定でございます。

#### **(7) ふじのくに茶の都ミュージアムにおける活動（資料7頁）**

##### **ア ふじのくに茶の都ミュージアムにおける小中学校の施設見学の受入**

次に7頁目をお開き下さい。ふじのくに茶の都ミュージアムにおける取組についてでございます。ここにつきましては本日、白井副館長に出席をしていただいておりますので、白井副館長からですね、御説明をお願いしたいと思います。

24. 50

**(白井 満 ふじのくに茶の都ミュージアム副館長兼学芸課長)**

ふじのくに茶の都ミュージアムの白井です。ミュージアムの取組について紹介します。

ミュージアムは茶の社会的教育施設として役割を高めておりまして、学校機関の受け入れを積極的に行い、子供・若者にお茶の魅力や文化を伝えております。資料1の7頁の上を御覧ください。

10月28日現在で今年度は小中学校の受入が26校・1,030人と記載されておりますが、最新の11月10日時点でまとめたものによりますと小中学校は33校・1,318人です。参考に高校とか大学も入れますと、全体で48校2,281人となります。実は高校生はですね、中学生よりも多く来館しているという実態があります。小中学校の昨年度の2020年の来館は24校・1,803人で、コロナによってだいぶ減少しましたが、最近増加傾向に移っております。

それからですね、お手元にですね、こういうようなガイドブックのチラシが入っておりますので、ちょっと取り出させていただきますか。印刷されているもので、主にですね、小中学校の修学旅行とか、遠足・総合学習に利用していただくために作成しました。

開けますと左の頁はミュージアムの紹介ということで、上から博物館の見学、40分から60分で、そして展示内容が掲載されており、左下に日本庭園15分、茶室見学・茶道体験が20分ということになっております。

右側に主に学校向けのプログラムを紹介しております。学校から申込みがありますと、左上のように、①ミュージアムの職員が会議室で全体の説明をします。②子供向けのワークシートを配布して生徒1人ずつまたは班単位で見学をしていただきます。③必要があれば職員が説明に出向きます。午前中に見学をしていただき、料金は無料でございます。

その下の方に学校向けの体験メニューです。左の茶道体験は茶道家の先生が日本の文化として茶道の説明をしながらお茶・お菓子の頂き方を教えていただきます。これについては1人500円かかります。右の茶摘みについては年4シーズンで行っております。通常1人500円ですが、学校向けは特別サービスということで無料にしております。ただし5月の連休の混雑期は御遠慮いただいております。申込はホームページから予約を受けています。

**イ 学校への茶ミュージットの貸し出し**

またその下の方にですね、茶ミュージットというものがあります。これはミュージアムの来館が難しい学校におきまして用意しているものでございます。またお茶の専門家がいなくても学校の先生だけで説明ができるように解説本をつけて利用しやすいようにしており

ます。内容はですね、さっきの資料1の7頁の下の方に少し書いてあります写真を見ながら見ていただくとわかりがよいと思いますが、左上の方から、商品の茶葉見本、それから香り成分の嗅ぎ比べ、カテキン・カフェインを顕微鏡で見る、下の方に行きますと、トイレットペーパーとかサプリメントのお茶の商品、それから日本と海外の生の茶葉の見本、で、最近におきましては新たにお茶のクイズを加えました。また江戸とか明治時代のころのお茶の浮世絵のコピーも付けてあります。常にレベルアップするようにしております。これを無料でやりますが、返却する際は学校の負担でお願いします。3セットありますが、県教育委員会のEジャーナルでも掲載していただきまして、今年度は既に20の学校で利用していただいて、好評で来年1月まで予約でいっぱいです。1回につき2週間程度利用していただくような格好にしております。ホームページで使い方の動画を配信しております。

## ウ ミュージアムの周辺情報

最後に、この冊子・チラシの裏のページにですね、近隣の周辺の観光施設、例えば蓬莱橋とか富士山静岡空港、諏訪原城を掲載しております。修学旅行や遠足、総合学習に合わせて訪問されるようお勧めしております。皆さんからも利用して愛飲が進むよう広報の応援をよろしくお願ひしたいと思います。今後も県の教育委員会と連携をしながら、子どもたちへの広報を推進していきたいと思ひます。是非ご利用いただきたいと思ひます。以上でございます。

30.09

### (8) 小学生向け茶協議会「Cha-1 グランプリ」の開催（資料8頁）

#### (小林栄人・お茶振興課長)

ありがとうございました。それでは引き続き資料1にもどりまして説明を続けていきます。

8頁目をお開き下さい。小学生向けの茶の競技大会、Cha-1 グランプリの開催でございます。この大会はお茶に関するクイズをはじめお茶の種類を見たり飲んだりして当てるお茶の競技大会でございます。昨年度、初めて県で実施をいたしました。コロナ禍ということで本来であればたくさんの参加者を集めて対面式での開催を考えましたが、これを見送りまして、参加者の御家庭と事務局をウェブでつなぎまして、各家族の方々にも御協力をいただきながら大会を実施したというところでございます。本年度につきましてはですね、対象を小学生だけではなく中学生まで拡大しまして来年の3月に開催をするという予定でただいま準備を進めているところでございます。

### (9) 県内の小・中・高の児童生徒を対象にしたお茶の淹れ方教室の実施（資料9頁）



次に9頁目をお開き下さい。これは茶業関係者の皆様によります愛飲の取組についてでございます。本県ではJAや県茶商組合、そして日本茶インストラクター協会とか各市・町の茶業振興協議会など、多くの茶業関係者の皆様が以前から各地域におきましてお茶の淹れ方や歴史文化、機能性など、幅広いお茶の魅力を児童生徒のほか皆様方に伝える取り組みを行っていただいているところでございます。こうした地道な活動がですね、連日例えばこういった静岡新聞でありますとか、こういったところに取り上げられているということで、お茶の親しむ文化がですね、育まれているというところでございます。

参加者からはですね、「もっと静岡茶のことを知りたくなった」とか「この講座でお茶のファンになりました」など、こういった声が寄せられているというふうにかがっているところでございます。

#### **(10) 静岡茶の愛飲機会の提供**

続きまして10頁目をご覧ください。これまでご紹介しましたこういった様々な取り組みによりまして県内の全小中学校におきます愛飲の取り組みにつきましては平成28年度の287校、36%から昨年度は783校、99.6%にまで拡大をいたしました。今後はこうした取り組みが引き続き各学校や家庭で定着をしていくということ、さらにはこうした取組が通年で実施していけるように取組んでいくことが大変重要と考えているところでございます。

#### **(11) 県内の小中学校における愛飲の取組の実施方法**

加えてですね、11頁をお開き下さい。これは県内の小中学校における愛飲の取組の実施方法を取りまとめたものでございます。上段の表は令和元年度の実績でございます。一番左に通年での実施校とございますが、これにつきましては364校、46%でございます。令和元年度につきましてはやかんで提供している学校が204校と大変多くを占めておりました。一方昨年度、コロナ禍になりますけれども、令和2年度の実績につきましては、通年での実施校はさらに増えまして485校、62%に拡大しております。特に水筒を持参するというこういった取組が446校と大きく拡大しており、各茶業者の皆様の御協力によりお茶の提供のこうした取組による成果が出ていると考えております。一方、やかんでの取組がやや低下しておりますのは、おそらくコロナ禍での対策の一環がこうしたことになっているのではないかと推察をしております。

#### **(12) 通年で静岡茶を愛飲する取組の拡大に向けた課題と今後の取組**

12 頁をお開き下さい。このような取組状況を踏まえまして今後の課題と取組についてご説明を申し上げます。

まず1つ目といたしまして、通年での愛飲の取組の拡大についてでございます。課題といたしましては昨年度、そして本年度は茶業関係者の方々が国の予算を活用して県内の全小中学校へお茶を提供していただきましたが、次年度以降はこうした国の事業は予定されておりません。また給茶器やサーバーなどを設置していくという取組も徐々に増えてはおりますが、予算的な確保がなかなか難しいと考えております。こうしたことから今後の取組としまして、各御家庭にも御協力をいただきマイボトルで緑茶を持参していただく取組をさらに促進をしてみたいと考えております。引き続き茶業関係者の皆様には御協力をいただき、静岡茶講座を実施していければと考えております。加えまして緑茶がもつインフルエンザ予防やリラックス効果など、こうした客観的なデータ、エビデンスですね、こういったものを広く正しく情報を発信していくことが大変重要と考えております。

### **(13) 静岡茶の食育の機会の確保の1**

#### **児童生徒に対する静岡茶の食育機会の確保に取り組んでいる学校の割合**

36.34

続きまして13 頁をお開き下さい。ここからは少し教育委員会の方で御説明を申し上げます。

#### **(櫻井澄人 静岡県教育委員会健康体育課課長)**

静岡県教育委員会健康体育課課長代理の櫻井と申します。それではですね「3-2 静岡茶の食育の機会の確保」について御説明させていただきます。

13 頁を御覧ください。愛飲条例では児童生徒の健全な心と体を培い豊かな人間性を育むため小中学校において、お茶のおいしさ、お茶の機能、その他のお茶に関する一般的な事項のみならず、静岡茶の茶葉の産地、静岡茶の歴史、静岡茶の文化、その他の静岡茶に関する事項について、児童生徒の理解を深めるお静岡茶の食育の機会を確保するように定められております。小中学校においては各教科や総合的学習の時間において、お茶の淹れ方実習、茶摘み、茶道教室などの体験学習や調べ学習、また給食の時間における校内放送、掲示資料やお便り等の配布、クラブ活動など、学校教育活動の様々な場面でお茶に関する食育を実施しており、令和元年度は84%の小中学校で静岡茶の食育に取り組んでおります。

今後はですね、県内すべての小中学校でお茶に関する食育が実施され、お茶のおいしさや機能、産地や文化などの理解促進を図り、お茶を学び、親しむことで健康な心と体づくりを進めていきたいと考えております。

### **(14) 静岡茶の食育の機会の確保の2**

#### **課題と今後の取組（事務局案）**

続いて14頁をご覧ください。静岡茶の食育を進めていくうえでの課題としてはまず、お茶の産地以外でも、お茶に関する食育が継続的に実施される体制を作ること、次に学校・家庭・地域が連携した取組を実施すること。そしてデジタルツールの活用など、多方面からお茶に関する食育の支援をしていくことが必要だと考えております。

これらの課題に対し今後の取組に記載の通り、まず栄養教諭等の食育担当者向けにお茶の淹れ方講習会の開催を考えております。先ほど4頁の説明にもありましたとおり、今年度は家庭科などの食育担当教諭を対象とした講習会を実施しているところではありますが、来年度は栄養教諭なども対象にしていきたいと考えております。講習会では栄養教諭などがそのほかの教諭とともに小中学校特別支援学校の各教科の事業においておいしいお茶の淹れ方やお茶の健康効果などを、その専門性を活かした授業展開が実施できるように支援し、お茶の食育指導者としての育成を図っていききたいと思っております。

次にお茶の産地以外の地域で体験等を通したお茶の食育が無理なくできるようにモデル校を設定しまして取組を実施し、静岡茶の食育カリキュラムモデルを作成し県内の学校でそのカリキュラムを共有することで多くの学校で活用し継続的な指導取組ができるように促してまいりたいと思っております。また昨年度実施しました学校へのアンケートでは、お茶に関する資料や教材の提供を望む声が多く、そのような声に応えるためにも学校で活用できるデジタル教材を作成し、学校に提供していくことや体験活動などの講師派遣に関する情報もですね、併せて提供していきたいと考えております。また静岡茶講座につきましては、今年度に引き続きまして、また継続して実施を考えております。以上です。

## **(15) 新たな認定制度の創設**

40.57

### **(小林栄人・お茶振興課長)**

それでは最後になりますけれども、15頁をお開き下さい。新たな認定制度の創設についてでございます。昨年度実施しましたCha-1グランプリで優勝しました児童からですね、できれば中学生になっても今回勉強したそうしたことを活かしていきたいと、そういうふうな思いをうかがったものですから、我々としましては例えばここでは少し参考事例ということで藤枝市の取組を書いてございますけれども、藤枝市ではジュニア小学生にはジュニアお茶博士、そして中学生になればお茶大使というように、こうした取組を行っておりますけれども、新たな認定制度を創設し、活動の場を少し作っていくというような取組を検討していきたいと考えているところでございます。今後ですね、一部の県民会議の委員の中の少し御協力をいただきまして、新しいこういった制度の創設に向けて検討していければと考えております。検討結果につきましては次回の県民会議で御報告をさせていただければと思います。

以上で私からの説明は終わりますけども、別刷りでですね、今回少し時間がなくて説明ができませんでしたが、大変中身の充実しているこうした愛飲の取組を紹介するような冊子、事例集なども、教育委員会の方で作っていただいておりますので、また後程ご覧いただければと思います。説明は以上でございます。

42. 54

## 2 各委員からの感想・意見・提案等

(会長・村松啓至)

ありがとうございました。報告を聞かせていただいて、着実な進展があるのではないかなというそういう感想を持ちました。ただ今事務局から小中学校における静岡茶の食育と愛飲の促進について説明がございましたが、皆様方の方から、御感想、御意見、御提案等を伺いたいというふうに思いますが、いかがでしょうか。

### (1) 佐々木余志彦委員の質問とそれに対する県からの回答

#### ア 質問—茶ミュージックの貸し出し状況及び Cha-1 グランプリと Tea-1 グランプリとの棲み分けについて

(佐々木余志彦委員 静岡県茶商工業協同組合理事長)

ひとつ、よろしいですか。

(会長・村松啓至)

はい、お願いします。

(佐々木余志彦委員 静岡県茶商工業協同組合理事長)

静岡県茶商工業協同組合の佐々木と申します。いつもですね、村松会長の御挨拶、冒頭の通りですね、県の皆さんの力強いこの事業への御推進とあるいは茶業あるいは茶文化への御協力に対して感謝申し上げたいというふうに思います。

それでいま御説明があった中で、白井さんの方からキットの貸し出しがあるということなんですが、どのぐらいの件数が、本年度ですか、貸し出されたのかという実績はございますでしょうか。

2つありまして、もう一つはですね、Cha-1 グランプリと、それから民間で行われている Tea-1 グランプリとのですね、この棲み分けというか、その辺をちょっとどのようにされるのかというのが気になったものですから、そこをいただければありがたいんですけども。以上です。

**イ 回答—茶ミュージアムの貸し出し状況について、白井満ふじのくに茶の都ミュージアム副館長兼学芸課長**

(会長・村松啓至)

それではまず白井さんの方からお願いします。

(白井 満ふじのくに茶の都ミュージアム副館長兼学芸課長)

今年度にあってはですね、4月から年内くらいでほしい20校から申し入れがあって、今、待ちがずっとあって、来年の1月までは使えない。3セットありますが、使えないというかも予約でいっぱいになっちゃって、もっとたくさん作ってくれて要望があるんですが、貸し出しの事務というのが意外と調整がつかず、今3セットでどうにか回しています。そんな状況で、今のところは人気があると。去年の秋から始めたところでありませう。

**ウ 回答—Cha-1グランプリとTea-1グランプリとの棲み分けについて、小林栄人お茶振興課長**

(小林栄人お茶振興課長)

それから2つ目のご質問のTea-1グランプリとの棲み分けということでございます。Tea-1グランプリと申しますのは、それこそ、これも一番最初は、もう10数年経つんでしょうか、今県内では10までは言っていないと思いますけども、弱だと思いたすけども、やはり小学生を対象にですね、例えばクイズであるとか、お茶を実際に淹れるそういったものを、一定の所作を見ながらですね、それを見てですね、一定のレベルであればその方々を表彰するというようなそういった非常にお茶に親しんでもらうような、そういった取組を市であったり、農協さんであったり、茶商の方々であったり、インストラクター協会であったり、そういった方がいろいろ御協力をしてですね、各地域ごとでやっているものでございませう。で、こういった取組がずっと続いてきてですね、一昨年、実は島田市長の方からですね、できれば、島田市でも開催しているんですけども、そういった子供たちのもう一歩上の県段階での何と云うんでしょうか、取組をやったらどうかというふうなご提言がございまして、昨年度初めて県としてですね、Cha-1グランプリというところで取り組みを行ったというところでございます。ですので、地域と言いましょうか、それを越えて、県下全域で、こういった取組をやっている…Tea-1グランプリって、一寸長くなって恐縮ですけども、茶産地以外のところでは実はあまりやっていないものですから、茶産地以外の子でもですね、興味があれば是非参加してくださいと、というようなところの趣旨でですね、開催をしているところでございます。

(会長・村松啓至)

よろしいですか。キットの数の話しが出ましたけれども、キットの数が増えるといいですがね。なかなか増やすわけにはいかないわけですね。

(白井 満 ふじのくに茶の都ミュージアム副館長兼学芸課長)

検討して。要望に応えられるかどうかわかりませんが。

## (2) 土屋裕子委員（日本茶インストラクター）の質問—父兄の反応や家庭での問題点は

(会長・村松啓至)

大変人気があるようで。はい、じゃあほかにいかがでしょうか。はい、じゃあお願いします。

(土屋裕子委員 日本茶インストラクター)

48. 23

日本茶インストラクターの土屋と申します。よろしくお願いたします。県というか教育の現場の方に伺いたいんですが、父兄の方にも協力を呼び掛けて下さって、水筒持参で愛飲を進めてくださっているという取組のお話を伺いましたけれども、学校での取組に対して、父兄の方の反応というのはどういうふうな形で入っているのか伺いたいと思います。とにかく子供の数だけ父兄がいらっちゃって、倍大変なんじゃないかと思って、いろんな意見があるんじゃないかと思うんですね。父兄の方の反応、実施した報告ということは受け止めましたけれども、実際に現場でそうしたことで何か問題点であったりとか、お茶に対しての、要は子供たちというよりその先、親、父兄、家庭の中での何か問題点などがあつたら伺いたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

## (3) 木苗直秀静岡県教育委員会教育長

よろしいですか。教育長の木苗です。お茶についてはですね、私も研究そのものもやりましたし、そしていま皆さんお話しがあるように子供の時から飲んでもらおうということで、これは我々も仕事としてやってはいるんですが、と、もう一つ今度はコロナがありましたので、いろいろなものが今かなりブレーキがかかっちゃってですね、ただ僕、今年は実は一回しかお昼にですね、伺ってないんですよ。あとはちょっと色々コロナの関係で、止めていたんですけども、ただ実際には学校ではですね、それぞれ給食をお世話している先生、それからクラス担任の先生方がちゃんとそのへんはカバーしてくれますし、もちろん先生だってお茶を飲みますのでね、そういう点では僕は非常にいいことだなと思います。

で、まあいろいろのイベントとしてやるのもいいんですが、実際には毎日飲むんですね。それからもう一つ、家族にはですね、それよりご家庭では、みんな誕生日もありますしね、

本来、うちでご飯を食べますよね、朝とか晩とか、なんかそういう時に、お茶を飲むだけではなくて、いわゆるお茶を通してと言いますか、そういう時間を使ってうまくコミュニケーションを、御話合いをすとかですね、何かそういう時間にするといいかなど。誕生日は必ず来ますよね。そうしたときに、お菓子とか何か買って…そうしたときに、やっぱり含めてですね、そうすると、かなり色々場面がありますね。僕、自分のうちのことも考えながら言っているんですけども、そうしてみると、「さあ、お茶を飲みましょう」というのは、一種の強制みたいになっちゃうと、そうすると今度はですね、その時間というかその時期、要するに小学校、中学、もう終わると飲まなくなっちゃうかもしれない。そうじゃなくて、それを通して、ある意味では一生飲めるような。それはですね、わたくし、今年、12月24日にオンラインでやるんですけども、ノーベル賞学者の山中先生含めてですね、それから京大の山根先生らと一緒に「健康寿命は皆で伸ばせる」という、そういうようなフォーラムをやるんです。世界健康フォーラムというのを。で、その中で、私ももちろんお話しをさせていただきますけれども、そうしてみると、皆さん、世界でも注目されているんですね。静岡県だけではなくて、日本、そして世界で。だからそういう意味では、もうちょっとアピールしなければいけないなと思っているのが一つ。それからもう一つはですね、お茶をどうして手に入れるかということなんですが、私、実は沼津の出身なんですけれども、山、愛鷹山がありますよね、あの中腹にうち茶畑があったものですから、麦も作ったりなんかしてたものですから、そういうところでお茶を刈るのもう全部、小学校の時から当たり前に行っていたものですから、そうすると、ちょっとそういうのも一緒にね、小学校の校庭のところ一部、お茶の木を植えてね、何かやるということももっと楽しくなるかなと僕は思うんです。

だからそういう意味で負担をかける、子供たちに負担をかけるのではなくて、子供たちがほんとにそういうものを育てて、そしてそれをまた、よくありますよね、果物でも何でもいろいろ摘み取って何か、もうちょっとストーリーとして、一生の中でお茶はどうするんだというようなこと、それはそれから健康にいいよということを含めて、それが静岡県だけではなく、日本のアピールにもなるし、そういうことで考えていくと、今やっていることはすごくいいことだと思うんですが、もう一段上げてですね、だいたい市町から言われるのはお金がないからお茶は買えませんと、必ず言われるんですよ。僕はそうではなくて、皆で作ってみて、静岡って温暖ですからね、どこでもできますけども、だからそういうことも含めて、大きく考えるといいのかなど。夏休みに皆であれすとかね、そういうことをやりますとね、ある会社、有名な会社はちゃんと表彰してくれます。今、毎年30件ぐらい表彰して、自分が委員長でやっているのだからですけども、そういうようにしてもうちょっと、それをもっとPRしなければいけないかもしれないですけども、要するに何かお茶がここにあるから飲むんだというのではなくて、もうちょっと原点に戻って、そういうようなものを、苗木を売ってますよね、あそこのセンターに、なんかそういうようにしてやる、時間がかかりますけれども、今はとりあえずお話しがあったようにやるだけけれども、もうちょっと教育とかね、という面で考えると、与えられたものを何かするだけではなくて、もうちょっと

自分たちが積極的にやる、それは卒業してからもいろいろ仕事に対してそうだと思うんですね。そういうやろうという気が起こるかなと思って。静岡ってこんなに温暖で、気候もかなりもちろん温暖ですし、食の宝庫ですので、その中でお茶を飲む一時期はどうかと考えると、そうとう僕いろんな面でいいかなと。

ちょっと長くなりましたけれども、そういうことで、皆さんが言っていることをうまくまとめて、ただ事業をやるだけではなくて、それから県外からも、例えば東京都から他からもバスで何台かです、静岡県の例えばあるいくつかの場所、もちろんこのお茶のセンターもやっているかもしれませんが、かなり見学に来ているんですよ。そういうときお話ししてあげれば、もっと静岡のお茶が県外もみんな飲んでくれるようになる。我々静岡だけ良ければいいのではなくて、もうちょっと、国内のあるいは場合によってグローバルに考えなくてはいけないということでは、せつかくのお話をもうちょっと整理整頓しながらやることによって世界にも、いま実際には行っているんですけども、流れている、そういうふうなことで考えていただくと、今度はそれが子供たちの教育の中で、物事はローカルにそしてグローバルに考えようと、というようなことで参加する人も。ちょっと余分なことでしたけども、そんな感じがします。ありがとうございました。

56. 10

#### (会長・村松啓至)

家庭の習慣化とか、大きい範囲でグローバルな見地で、家庭でいかに習慣化されるかというのがね、木苗先生よくおっしゃることで、それとあと山中先生の話も出てきましたけど、何とかエビデンスを、いろんな科学的なエビデンスというのは出ているんですよ。あるんですが、何をどう拾うかというのがポイントになるんですね。是非ともそのへんのところをまたやっていただきたい。

それで土屋委員から出たのは、保護者はどうだという話ですよ。保護者はどうだという話は、こちらで話し、牧野校長の方から話を、ちょっと紹介をしたいと思いますので。

57. 00

#### (4) 牧野美砂子委員 県校長会理事 島田市立金谷小学校校長

金谷小学校の校長の牧野と申します。本校は島田市ということで、島田市緑茶化計画ということで、市でもお茶の推進をしているところですし、先ほどお茶の都ミュージアムさんの話がありましたが、地元で、本校は12月に今度予約を入れさせていただいているんですが、金谷は、金谷の茶祭というふうなね、ということで2年に1回、茶祭もしているぐらいで本当にお茶はもう身近で切っても切れないし、皆お茶大好きなので、ちょっと他の学校とは事情が違いますが、水筒にお茶を入れてくるというのは、そういう環境ですので当たり前ですし、もう喜んでというか、皆お茶を日々飲んでいきます。

転校生があったりすると、そういうお茶にあまり親しんでいない地域から来た転校生の保護者なんかは最初はあれ、とやっぱりね、思う親も中にはいます。ですが子供が3年生に



なると総合的な学習の時間の中でお茶の勉強をするんですね。その中で調べ学習をいろいろ、お茶の地元でいろいろわかっているといても、子供たちがさらにいろいろ調べたり、保護者や地域の人からいろんな人から聞いて、お茶のことを学んで行ったり、そういった体験もいろいろ説明をしたり、茶工場に行ったり、茶農家さんと連携をとったり、手揉み体験をしたり、ほんとにいろんなことをする中で、お茶の良さというのを学んでいくと子供がうちに帰って親にとかお祖父ちゃんお祖母ちゃんとかに、お茶の良さとか、健康にいいとか、とてもおいしいとか、こんなにふうに皆頑張ってるって作っていて、その良さを伝えたいとかという色々な学びをして、家に帰って、言うものですから、転向してきた親も子供たちが、子供の方から積極的な学びというか、をして、それを発信していくということで、他地区から来た転校生の親なんかもそれに影響されてというか、ああそうなんだ、ということで、積極的にまたお茶を飲んでいくという風なことになるので、子供が学んで発信をしていくという、そこってすごく大きいなということをね、そういう事例から思います。

なので、島田市でだけでなく、色んな学校でお茶の良さを子供たちが進んでいろんな機会に学んでそれを家庭や地域で広めていくというか、そういうところは、すごく大事なところだなというふうに思っています。なので水筒にお茶を入れてくるというのは、習慣化されてくるとそれが当たり前になっていて、保護者も特に違和感なくやっつけていけるのではないかなというふうに思います。1.00.30

**(会長・村松啓至)**

ありがとうございました。では、久保田委員。

**(5) 久保田浩子委員 町教育長会理事 (函南町教育長)**

函南町の久保田でございます。私は昨年まで現場の中学校の方で仕事をしていました。東部地区ということで特に伊豆の山間部になりますと、なかなかお茶を作る場所がないというような状況でございます。私の過ごしています伊豆の国はまだ平地があったり山もなだらかですので、お茶を作ってそして体験をしている子供たちもいます。函南町の方でもちらほらは茶畑があるような状況ですけれども、昨年お茶をいただいたんですね、たくさん。ただ分けるだけではね、保護者の方に伝わらないということで、去年私は給食、栄養教諭の担当でしたので、食と体ということで、それぞれ1枚やはり書いていただきまして、プリントを作っただきまして、それも県からいただいたものにプラス入れて配布をしていたような取組をしました。本校においては、6月に早くいただいた結構いただいたと思うんですけども、体育大会が去年コロナの関係で縮小になって保護者の方たちが見られなかった、参観できなかったわけなんですけれども、学校で特別に用意した参加賞、いつもはないんですけども、参加賞とこのいただいたお茶を袋に入れてましてご案内の配布と町で作りましたものを入れて、子供たちに持たせました。そしたら、おいで下さった保護者の方が

「こんなにたくさんお茶をもらってありがたいです」っていう声が何人かの方からございました。東部の方もたぶんほとんどの学校が特にこの冬場は先ほどから話題になっていきますように、もう水筒の中にお茶を入れてお茶うがいをするというのが小学校のころからほぼ実施しているような状況で中学生になってもほとんど中身はお茶になっています。夏場はまた違ったものになりますけども、冬は特に東部の方でも保護者の方もお茶を入れるというのはかなり定着しているのかなというふうに思っているところです。

あと学校には関係がありませんが、お金がなくて、木苗教育長さんのお話がありました。学校そして教育委員会の方もお金がなくて、お茶が買えません。で皆さんが、変な話しですけども、通夜・葬儀のときに返礼でいただきますお茶が家で飲みきれないという方たちが皆さん学校の中でも持ち寄って、そして使っている。私ども教育委員会におきましても、皆さんでいただいたものを持ち寄って無駄がないように使っているというような現状もございます。長くなりました。

1. 04. 11

#### **(6) フィルターインボトルについての土屋裕子委員と村松啓至会長とのやりとり等**

##### **(村松啓至会長)**

はい、ありがとうございます。保護者の実は反応が、ここで通年で静岡茶を愛飲する取組の拡大の実は重要なポイントで、土屋委員がおっしゃっておいで、今お2人に、牧野委員と久保田委員からお話があったように、お茶を使ってやろうとしているというのは確かにあります。ただですね、学校からそれを説明すると、中に、なんでお茶を入れないといけないんだと怒られるときがあります。夏場お茶を持って来ましようねという、なかなか水だしのお茶のおいしさというのって浸透するのって難しいなと思っているんですが、やっぱりスポーツドリンクそれが中心になりますので、なかなか難しいところがあるなというふうに思いますけれども、ただその辺のところを、いわゆる健康のためにという、エビデンスの話が出ていますが、健康のためにというところが重要なポイントになってくるなというふうに思っています。よろしいですか。

##### **(土屋裕子委員)**

また、1つ質問していいですか。村松会長に伺いたいんですが、さっきのフィルターインボトルの提供はそれは商工からですか。

##### **(村松啓至会長)**

いや、これは違います。市と商工会が提携して。

##### **(土屋裕子委員)**

磐田市で実施したということですか。

(村松啓至会長)

はい、そうです。

(土屋裕子委員)

全員にはいかない。

(村松啓至会長)

いかないです。ある特定の学校だけです。

(土屋裕子委員)

じゃあ、モデルというか、実証的に、実験的にというか。

(村松啓至会長)

はい、これ、たくさん作れば安くなりますけれども、これ1本1,800円から2,000円いくらかかかるんです。1本で。もし作ってどっかで協力していただければもう少し安くなると思います。

(土屋裕子委員)

すごくいいなと思ったものですから、まともればいいなと思って

(村松啓至会長)

うまくできているんですよ、実に。ここの…これ、皆さん、ご存じですよ。ここでとれるようになっていきます。硬質プラスチック。

(土屋裕子委員)

ありがとうございました。習慣的にお茶を飲んでもらう取組として、やっぱりこれから重要なことかなと思って質問させていただきました。ありがとうございました。

(村松啓至会長)

先ほど久保田委員から茶葉を提供していただいて、体育大会の時に配布したんですか。石川委員、そういうこともあったわけですがけれども、茶葉の提供等についてですね、石川委員の方から少しお話しをいただきたいなというふうに思うんですが、よろしくお願いします。

1. 07. 21

(7) 石川和弘委員 静岡県経済農業協同組合連合会常務理事

経済連の石川でございます。先ほど小林課長から説明も若干ありましたけれども、わたくしども JA グループとしてですね、本年度につきましても補助事業を使いまして、小中学校、私ども小学校を中心にやらしていただいておりますが、学校給食への食材の提供ということですね、県下の小学校にお茶を提供させていただきました。目的は先ほどから出ている通りですね、お茶に関する理解の促進をしていただく、また愛飲ということでございますけれども、私どもは経済団体でございますので、消費拡大というものも含めてお願い、目的にやらしていただいた、ということでございます。

提供させていただいたのはリーフ茶と、抹茶と、ティーバック等も作ってですね、提供させていただいたということです。経済連としましては、526校に配布をさせていただきました。あと県内のJA、農協でも275校には配布したと、若干ダブっているところはありますけれども、させていただいたということです。提供は提供として、先ほど運動会の景品でという話題もありましたけれども、いろんな方からお礼のお手紙なり届いていますので、内容を見てみますと、お茶の効能の報告をいただいたと、これから毎日飲みますという強い言葉も聞かせていただきましたし、これはご父兄の方からもお手紙をいただきましたし、児童さんからも手紙をいただいたということでございます。中には家族のだんらんが増えたというようなこともお手紙の中に入ってございましたので、それはやってよかったなということを判断してございます。

またいろんな茶の淹れ方教室等につきましては、私どもの持っている団体の事業も活用しながらですね、県下の11でお茶を作っていますけれども、11の農協でお茶を作っていますけれども、11の農協が、管内にある学校の皆さんにですね、淹れ方教室等を実施をさせていただきながら、効能だとか当然、文化だとか、その地域の特性だとかというのを説明を、今後も愚直に続けていきたいなということでやってございます。いろいろとやってくる中でですね、やっぱり学校でも飲む、ただし家庭では必ず飲むというのがキーポイントになってくるのかなと思っていますので、今後についてもお茶を飲む機会を作るために、私どもも、いつまでも提供はできないかもしれませんが、いろんな部分の中で浸透につながるように一緒に行動していきたいと思っていますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。以上でございます。

1. 10. 14

(村松啓至会長)

ありがとうございます。ほんとにいろいろ活用していただきましてね、ありがとうございます。学校でも飲む、家庭でも飲む、なかなか家庭生活もかなり難しい状況があったりしますけれども、ほかにいかがでしょうか、今まで話題になった内容でですね、あと食育の観点、食育カリキュラムについてもいろいろ話しが出ていたんですけども、いかがでしょうか。はい、天城委員、お願ひします。

(8) 天城真美委員 静岡県PTA連絡協議会副会長

静岡県PTA連絡協議会副会長の天城と申します。私は沼津市から参りました。沼津市は沼っ茶ですとか、ペットボトルの沼っ茶また素六茶という粉茶がありまして、それを市民たちは皆さんすごく、ラブライブというアニメともコラボしている商品もあつたりするので幅広く知られておりますし、何か行事があるとだいたい沼津のアピールということで沼っ茶を提供するようなことはすごく多い地域であります。

父兄の意見としてなんですけれども、静岡県の方からお茶をやはり子供がもってきていました。最初の年には粉茶で、素六茶というものをいただいていたんでね、それだと手軽にお湯で溶かすだけだったのでいろいろな場で利用されていまして、私、息子がスポーツをやっていますので、スポーツの活動の時にも素六茶が少し余っているから、今日もってきたからみんなで飲もうよということで、そういった場面でも素六茶を飲ませていただいて、幅広く皆さんに知っていただく機会にもなったというふうにも感じました。

で、昨年と今年かなと思うんですけれども、あとお茶を2回ぐらいもってきた記憶があるんですが、その時は普通に茶葉のお茶をいただきました。確かに量がすごく多いのでこんなにたくさんいただいているんでしょうかというふうに思ってしまったぐらい皆さんもらって帰って来たんですけれども、ちょっとある時、たまたま配布の日に私、学校にうかがう用事がありまして、その時に同席したんですけれど、先生が配っている時に、その前日にお茶をいただけるということは子供たちに言ってあったみたいなんです。そしたらもう水筒をお湯の状態でもって来た子がいたんですよ。だけど粉茶ではなかったんで、茶葉だったので、「入れられないー」って「僕、すごく楽しみにしてきたのに」という現場にたまたま遭遇しまして、その子はちょっと悲しんでいた姿が今すごく思い出されました。

そんな事がありましたので、やはりマイボトルを推奨していくということがあるんであれば、やはり手軽に飲めるもの、家ではお茶をきちんとお湯で入れるということはもちろん、大事になってくるかもしれませんけれども、普段から使えるというふうな手軽さで考えると、粉茶のほうが手軽でいいかなというふうな意見を保護者としては持っておりますし、水出しとなると、マイボトルを持っている子はやはり見かけないですね。ふつうの水筒でもっている子がすごく多いと思うので、そういった部分でもちょっとご検討していただけたらなというふうに思いました。以上でございます。

1. 13. 53

**(村松啓至会長)**

さすが保護者の観点ですね。ここの部分のことを言っているんですね。つまり淹れ方、どういうふうに淹れるかというのが、私どもがお茶の淹れ方という話しをしていますけれども、子供にとってまたはご家庭にとってお茶をどういうふうに淹れて提供するかという、そのへんのところを、どう云う風ふうにするかということによって、子供たちの状態が変わってくる、またはご家庭での状態が変わってくるということですね。なるほどですね。そのへ

んのところ、一考が、小林課長、必要かもしれませんね。はい、ほかにいかがですか。いや、小林さんどうぞ。

#### **(9) 小林栄人お茶振興課長**

貴重なご意見ありがとうございます。それこそ我々もマイボトルでもって行ってお茶を飲むとかですね、例えば児童生徒でなくても一般の方々も手軽にお茶を飲むというこういったスタイルがもう非常に増えてきていると言いましょか、そういったところに対応していくというのが、お茶業界では大変重要なところですね、今そういった取組を進めているところがございます。一つは粉茶でありますとか、例えば子供用の水筒にあったような例えばティーバックであるとか、ちょうどあったようなティーバックを作ってそれを配布するとか、そういった、しかもおいしくとか、熱湯に入れても例えば渋くならないとかですね、いろいろあるんですけれども、そういう工夫をやっぱりこれは、お茶の業界の方としても、我々の方としても進めていくと、その辺をやっぱり重要ななと思っております。私がちょっと全部、提供できないものですから、大変恐縮ですけども。

#### **(村松啓至会長)**

ありがとうございます。ほかにどうでしょうか。じゃあ、上野委員お願いします。

1. 16. 00

#### **(10) 上野由紀夫委員 静岡県私学協会理事 浜松学院中学校校長**

浜松学院中学校の上野と申します。よろしく申し上げます。この愛飲会議に出席させていただいて、自分もお茶を飲む意識というのが高まったのが嬉しいなというふうに思っています。それでやはり私立ですと、難しさを感じています。給食指導も中学校でもありません。栄養教諭もいません。校内には自動販売機がたくさんあるということで、何とかお茶の意識をとというふうに、どんな種をまけばいいのかなということで、自分もどうすればいいかなと苦労しているという大変ですが、一つは国庫補助事業でお茶をいただく機会があったものから、ホームページだとか、学校便り、自分が作っているものから、それを通して保護者の方にこんな効用があるから、こんな貴重なものをいただきましたよということを発信することかなということを思っています。

もう一つは今年度ですね、自分もふじのくに茶の都ミュージアムに、遠足で、ここに行けここに行け、ということで、生徒が行きました。自分は最初にちょこっと下見に行った時に「こんないい施設なのか」って、僕、びっくりしまして、ただ自分は博物館のどこを見ても興味はあるんだけど、子供たちはどうかなと、ちょっと心配しました。ただ行ってきた教員に聞くと、子供たちが、やはりワークシートがあって、学習があって、ということで、時間が足りないぐらい喜んで帰ってきました。茶道体験ができたり、その施設にということで、

そんなことでさつき種をまくという話しをしたのですが、子どもたちのお茶への意識というのは高まったかなというふうに思っています。

ただあとは、お茶の日常化というかですね、これをどうもっていったらいいのかなと、事あるごとに茶を提供していただいた時は保護者会で自分が話しをするようにしてますけれども、それが実践の中で家庭でどう浸透しているかというのはまだちょっと、金谷小学校さんと比べると保護者の意識というのは全く違うのかなというふうに思えます。家庭科の先生に言うと急須のないお宅も結構あるというのは現状で、家庭でもまた同じぐらい急須がないのかなと、そんな事を思いながらいるのですが、できるだけ多く学校で発信をしながら行きたいなと思っています。それには自分もそうですが、職員をやはり啓発していかなければいかんということも、教員へ、啓発していかなければいかんということも感じています。以上です。

1. 19. 21

#### (村松啓至会長)

ありがとうございます。急須という言葉が通じない時もありますので、保護者と話しをしているときに。そういうことがあったりしますけどね、だけど、そこのところを乗り越えていけないといけないというふうに思いますし、特に上野校長先生のところは、いろんな地区からくる子供が、多様な子供がいるものですから、なかなかその辺大変なところもあるのではないかなと。地域がなかなか難しいんですよ。そのへんのところ、いろいろご苦労を聞かせてもらいました。西原委員、先ほど。

#### (11) 西原睦実委員 静岡県農業経営市協会茶部会長

農業経営士協会茶部会長の西原と申します。生産者として、このように教育現場の方や、行政担当者の方が真摯に取り組んでいてくれるということをはんとにありがたく感じます。実はこの辺になるということで資料を先にいただいて、社員と「どうすれば小中学生に愛飲の促進ができるのかなあ」なんてぼやきながら話しをしておりました。そしたら25歳の社員が「西原さん、毎年やってるじゃん」と云うんで、「なんだっけ？」と言ったら、実はコロナで2年ほど中断しちゃっているんですけども、私、川根本町なんですけども、川根本町に東京の筑波大の付属中学が修学旅行でやってきます。ちょうどお茶の時期の5月にくるんですけども、うちでは、各班に分かれて来るんですけども、6人ほど預かります。それで急須ありますか？ お茶飲んだことありますか？ とか、そういう質問の中で、だいたい半分の方が「急須はうちにはないです」とおっしゃいます。で、自分はじゃあ、どうするかというと、安物なんですけど、常滑の急須を、あとお茶を帰り際にプレゼントして、修学旅行ですからお礼の手紙とかそういうのをたくさんくれるんですけども、このお茶の淹れ方を一応、一通り教えて「誰か好きな人とか大切に思っている人に淹れているのをメールで下さい」と、「学校の宿題として別にお礼の手紙はよこさなくてもいいから淹れて下さい」

というと、ほんとに皆さんまじめに、友達とかお父さんだとか、お母さんに「こういう淹れ方で飲めばおいしいと教わってきたよ」っていう、一つのストーリーができるわけです。その子たちはずっと、ありがたいことに、うちのお茶を購入していただいています。決して量は多くはないんですけども、一つ食育というか、愛飲の促進なのかなと。

今すごくがっかりしているのが、せっかくそのようないいものを作ったのに、一部の学校というのはすごく残念だと思うんですよ。これを本当にいろんなところをお願いしなきゃいけないんですけども、中にはスポンサーになってね、もちろん名前なんかは、こういうことを言っちゃいけないのかな、ここでは、名前が入っちゃったりするのかもしれないですけど、だけど是非、それ多分大量につくったら製造原価は数100円だと思います。そういうことがもし可能で、それが愛飲に結びつくなら、是非やっていただきたい、そんなふうに自分は感じました。

1. 23. 15

(村松啓至会長)

はい、ありがとうございます。お茶に関するストーリーができるというね、子供のストーリーができるというのは大事なことかなと、改めて思うところですね。

先に和田委員の方に。

## (12) 和田康委員 静岡県農業協同組合中央会常務理事

J A静岡中央会の和田です。よろしく願いいたします。J Aの取組は先ほど石川経済連常務から話をさせていただきましたので、私は個人的なご意見を言わせていただきます。

私どももこの食育ということについては、お茶だけではなくて、J Aグループを挙げて取り組んでいます。当初、食育というのは、いわゆる収穫体験というのが主であって、その一過性で終わってしまいますので、最近は、栽培から収穫、それから加工して、調理して、食べると、そこまでというところがいま増えてきています。それだけ、そういうことはたった1日ではなくて、かなり、栽培期間も、長くお付き合いできますのでそんな形でやっているところでもあります。

私どもJ Aとすると、そういった食育を通じて地産地消ということで、というところがあるんですが、それがなかなかご家庭までは、届かないというところですね。やっぱり子供さんが喜んでくれる、ご自宅で色々話をしていただいているというところもあるんでしょうけれども、一方で、そのものはどこに行っても買っていいのかわからない、あるいはコスト的に、というようなところもありましてというところですね。

お茶というのはまさにおんなじような形になるんだろうなというところですね。先ほど言ったように急須がないというご家庭もありますし、日常的にお茶を飲むという文化がないというところであろうかと思えます。お茶の文化というと、私どもからすると、生産者からするとやっぱり急須で淹れていただいて、適温で淹れていただいて、飲みながらほっと一息



というのが、私どもするイメージであろうかと思いますが、なかなかそういうところには行きませんので、先ほどお話しがありましたように、スポーツの後にガブ飲みするとか、とにかくお茶に慣れ親しんでいただかないと、このお茶の文化が途切れてしまいますので、まずは間口を広くという形で私どもも取組でいかなければならぬ、というふうに思っているところです。なかなかの御家庭まで御理解いただくというのはなかなか難しいこととは思いますが、そこはしっかり地道にやっていくしかないのかなと。今皆さんお取り組みいただいている数字を見ましても、かなり数字的には上がってきているというところで、次のステージへというところであろうかと思いますが、私ども J A グループとしてもしっかり対応させていただきたいなとそんなふうに思っております。以上です。

**(村松啓至会長)**

次のステージへということで、力強いお言葉をいただきました。

佐々木委員、先ほど質問だけだったですので、活動、力強くまた、発言をお願いしたいなと思います。

1. 26. 47

**(13) 佐々木余志彦委員 静岡県茶商工業協同組合理事長**

県茶商としてもですね、毎年これまで数十年にわたってですね、お茶の淹れ方教室というのを開催させていただいておりまして、今年もコロナ禍ではあったんですが、その中でも9校の小中学校に出向きまして、お茶の淹れ方教室を開催させていただいて、今年はこの10月までですが、465名の生徒さんにレクチャーをさせていただいたというような事がございます。

この数十年続いたお茶の淹れ方教室に関してですね、思うんですけど、じゃあ数十年経って30年前にお茶の淹れ方教室を習った子たちは今42歳とか、40歳前後の大人になっているということなんですけども、それでお茶の消費が伸びたかという、なかなかそこは伸びてなくて、そこは茶業界のすごくジレンマでですね、なぜ一生懸命教えているのに、小さいころ教わったものは大きくなって活かされて来ないのかということが一つありますので、この事業をやっていたんだくにあたってですね、ひとつお願いしたいのは、この授業を受けたことによって、このカリキュラムを受けたことによって、飲む回数がどう変わったのかとか、あるいは家族の団らんの時間が増えたのかとか、そういったことをちょっと、代表的な、全員はなかなか難しいものですから、200名ぐらいのアンケートなら、アットランダムにやってみていただくことができるんじゃないかというふうに考えているんですね。あるいは健康的になったような気がするとか、なんか安らぐような気分が安らいでよかったとか、というようなこともですね、聞きたいことですし、それから今 P T A 連絡協議会の副会長さんがおっしゃったような、親御さんたちの意見、これをちょっと、吸い取っていただきたい、今ここで伺ったんで「ああ、こういう意見もあったんだ」って私もわかったわけですけど、もう

すこし広く、今言った 200 名の方、児童さんとそれからその保護者の方ということで、両方からですね、アットランダムにとっていただいて、何がお茶の問題点なのか、どうすればお茶をもうちょっと活用していただけるのかというものをですね、吸い取っていただきたい、そうすることによってこの事業の振り返りにもなると思うんですね。良かったのか悪かったのか、こうした方が来年はもっと良くなるぞというところが見えてきて、この事業はよりステージが上がっていくと、というふうにはちょっと思うんですね。

それともう一つ。せっかくこのごろ県の方で指導してやっていたカテキンがコロナウイルスに効くというようなことが出てきましたんで、そのエビデンスがはっきりした段階では、宣伝になってはいけませんが、逆に法に触れてはいけませんが、そういうエビデンスだけは、発表されたという事実をですね、お茶と一緒に配布していただくというのでできれば、お願いしたいと思うんですね。このチラシとお茶の効能みたいなものも配られているようですので、そうすることによって、今ちょうど小学生、中学生の親子さんたちは、盛んに SNS をやっていらっしゃる世代ですので、その辺から情報発信ができればまた静岡の茶業もあるいはお茶文化も、もう少し全国に広がっていくのではないかなと、こんなふうな気がしております。これはご意見、申し上げました。

1. 30. 20

**(村松啓至会長)**

はい、ありがとうございます。より具体的にアンケート、調査しながら、それからあと SNS 等をどう発信するか、エビデンスの問題もありましたけれども、またよろしく願います。

栄養教育の中でですね、いろいろ平賀先生も委員も、悩みながら毎日を生活していると思いますけれども、やっぱり最終的に味とかそういうものの食育の中で子供たちがどういうふうに実際に感じているのか、捉えているのかな、生で見ていただいていますので、その辺とところお願いしたいと思います。

**(14) 平賀晶子委員 静岡県学校給食栄養士会会長**

学校給食栄養士会の会長をやらせていただいています平賀です。浜松市から来ました。浜松市浜松茶ということで、例年給食で、年 2 回にはなってしまうんですが、パック茶を提供しています。パック茶になるとペットボトルとはちょっと違って苦みみたいなものが出てしまったりちょっと癖があるかなと思うんですが、子供たちが飲むと、やはり苦くてとか渋くてとかと言って、好きな子、嫌いな子がはっきり分かれてしまって、牛乳の方がいいという子もいれば、お茶の方がいいという子がいるような状況です。

実際私もこの会に出席することになって、なかなかちょっと聞いてなかったんですが、1 クラスだけなんですけど、水筒の中身を聴いたところ、浜松では、あるんですが、30 人ぐらいのクラスでお茶が入っていた子は 4 人しかなくて、それ以外はみんな麦茶ということ

で、私もちょっと思っていたより少なかったので、とてもびっくりしました。やはり、さきほども、PTAのおっしゃっていただいたんですけどやはり、手軽に持ってこれるところで、水出しの麦茶だったりを持ってきやすい状態なのかなというふうに思っています。なので、味が好きじゃないという子は飲み慣れるというか、おいしいお茶をやっぱり飲む機会を与えてあげたいなということと、手軽に日々、飲めるような環境が何とかついていくといふのかなというふうに感じています。

1. 33. 05

(村松啓至会長)

ありがとうございます。麦茶、ありますね。うちの娘、今、ちょうど2人目の子供がいます、お茶をは飲まないですね。カテキンとかそういうのをちょっと調整しながら、看護師をやっているんですが、そういう場合もあつたりしますけどね、またそのへんのところも一つの課題だなというふうに思います。

1. 33. 35

### 3 追加意見

(村松啓至会長)

さて、お茶が出ていますので、先ほどお茶を飲んでいただいて、一息ついて、あと1人1分ずつお話しをしていただいて、最後、まとまりはなりませんけれども、すこし話しをしながら、まだ言い足りないこともあるというふうに思いますので、そのへんのところお聞きしながらですね、いきいたいというふうに思います。

それでは1人1分ぐらいずつ、そのつもりで行くと長くなりますので、一言ずつをお願いしたいなと思いますのでよろしくお願ひします。天城さんから順番に行きたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

#### (1) 天城真美委員 静岡県PTA連絡協議会副会長

こういう委員にさせていただいたことで改めてお茶についていろいろと考えたりSNSで検索したりと、やはり自分自身も意識が高まりましたし、自分の地域でどんな活動が行われているか、ほかの学校関係の状況もすごく気になるようになりまし、そういったまじ意識改革がすごく自分にとつても大切なものになっているなと思つておりますし、これから何ができるかということ、県東部の方の地域なので、どうしても今ちょっとお話しを聞いていると、見学に行きたいけどちょっと遠いようなとか、そういう部分でなかなか一歩踏み出せないような状況にあるので、でも何かできるようなことがきつとあるだろうなというふうには、感じておりますので、県P連の方でも12月に理事会がありますので、このことについて報告をさせていただきたいと思ひますし、少しずつでもアピールしていくこ

とによって何かできることを見つけてくれる方が一人でも増えていけるようになったらまた変わってくるのではないかというふうに感じました。以上でございます。

1. 35. 32

**(2) 佐々木余志彦委員 静岡県茶商工業協同組合理事長**

私どもからさきほどちょっとお話はたくさん申し上げましたので、ごさいませんが、県の茶商としてはですね、全体的にこの事業にももちろん賛同して、できるだけの協力をさせていただいて、この大きな成果が上がるように、協力させていただきたいと、こんなふうに思っております。ありがとうございます。

**(3) 西原睦実委員 静岡県農業経営市協会茶部会長**

自分たち生産者としてはとにかく、自分は実は父子家庭で、子供3人育てました。ですので、とにかく安心・安全なものを提供できるように何とか工夫していきたいと思っております。ありがとうございます。

**(4) 石川和弘委員 静岡県経済農業協同組合連合会常務理事**

この会議の目的でもございますけども、当然のことながら私ども生産団体、経済団体でございますので、生産者がお茶を生産をして、茶商の皆さんが広めていただいて、消費者に飲んでいただく、という部分を、まず、この会の皆さんは当然ご理解いただいていると思っておりますけども、児童の皆さんにも、中間中間の努力を理解いただくような活動も今後していただきたいと思いますし、私どもも今後していかなくちやいけないのかなと思っております。当然のことながら将来のビッグユーザーと言いますか、消費者になっていただくためのですね、今後の活動もしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

**(5) 和田康委員 静岡県農業協同組合中央会常務理事**

個人的な話しをまたさせていただきますけども、先ほど麦茶かお茶かという話があったんですけど、わが家はもう、その健康の詳しい話しはわかりませんでしたので、麦茶を初めやっていたんですけど、子供がまだ小っちゃいころ、お茶農家だったものですから、お茶に変えてくれということで 妻に頭を下げて変えました。それからずっと緑茶を子供たちは飲んでます。二十歳すぎになるんですけども、ずっと冷蔵庫は冷たいお茶が入っていてそれを飲むという、なかなか温かいお茶を飲んでくれないんですけど、冷たいお茶は日常。まあ小っちゃいころから、そういった食文化、舌が慣れるということは重要なかなと、そういった意味で児童等々に対する食育というのは非常に重要なんだろうなあというふうに思っ

おります。引き続き私どもJ Aグループとしても、この取り組みにですね、参加させていただいて、積極的に前に出てまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

1. 38. 30

**(村松啓至会長)**

ティーバッグって、お金はかかるですか。

**(和田康委員 静岡県農業協同組合中央会常務理事)**

たくさんはかかりません。中に入っているお茶をどうするか、高級なお茶からいろいろありますから、最近は高級なお茶を増やすように皆さん努力をされて、いいお茶を皆が入れているようなのが多いです。

**(村松啓至会長)**

すみません、途中挟みました。

**(6) 久保田浩子委員 町教育長会理事(函南町教育長)**

今日はありがとうございました。わが家でもお茶を飲むのは私だけで恥ずかしい話、子供たちも飲まないというような家庭になってしまっています。いろんなものが普及してきて若い人も小さいころは飲んだんですけども、大きくなってやはり飲まなくなっている、今のアンケートというお話もありましたけども、そこをどうつなげていけばいいのかなって、改めて思いました。

あとは食育担当、栄養教諭の先生方とかという形の講習会とかってありますけども、ここに是非、養護教諭の先生方にもお茶の講座をとということで、体について、色々、養護教諭の先生って、発信力があるんですよね。そして校内でも教員の食育担当そして栄養教諭と常に連携していますので、発信力があるのは一番養護教育の先生かなという風にも思われますので、そちらも講習会等何かやって、養護教員の会を持って、情報を提供していただいて、研修会等をやっていただけるとまたちょっと広がるかなというふうに感じています。ありがとうございました。

1. 40. 31

**(7) 牧野美砂子委員 県校長会理事(島田市立金谷小学校校長)**

今、久保田委員がおっしゃったこと、ほんとうにその通りだなってすごく思います。本校でもお茶の効能、養護教諭が積極的にいろいろ発信をしています。冬になるとうがいをするのに使うとかというのもそうなんですけれども、夏もだいたい冷茶で冷たいお茶で持ってくるんですけれども、時々季節に応じて、お茶の良さなんかも、それだけを書くわけではなく、色々な健康のことを保護者に伝えるというのを毎月やっているんですが、

その中にだいたいお茶のことが出てきているので、子供たちの意識も高い地域なんですけれども、そうやって、より重ねてね、いろいろ手立てを打っていくということで、養護教諭はとても頑張って本校でもいるんですけれども、久保田委員がおっしゃったように、養教さんの研修をさらにやって行って発信をしていくっていうのはとてもいいかなと思います。

それから学校の子供たち、何が今一番変ってるかというのと、1人1台タブレットになって、すごい自分の手元でタブレットで色々調べ学習をするということが、すごく増えてきています。さっき言ったように、3年生では必ず本校では多くの私たちの他の地区もお茶の学習をテーマとしてやっているんですけれども、デジタルツールのさっき活用ということで、お話しをいただいたんですけれども、その充実というのをすごくしていただけると、ありがたいなと思います。これまでもいろいろパンフレットとか、いろんな資料だとか聞き取りもするんですけれども、子供たちがタブレットに興味を持って、何かっていうとすぐにタブレットで調べようということになっているので、その資料を充実させてもらえると、さらに子供たちが意欲を持っていろんなことを学ぶということで、そういうふうにしていただければありがたいなと。今でもやって下さっていると思いますが、さらに子供が読むと、とにかく漢字がわからなくて、つまづくということがよくあるので、資料に必ずふりがなを振っていただくと、3年生とかどの子が見てもわかるというふうなことなので、挿絵が入っていたりとか、わかりやすい言葉で子供も読んでわかるというふうな、そういうデジタル資料を作っていただいて、そこにアクセスして学べるというふうなのがあると、よりありがたいなということを思います。以上です。

1. 43. 26

#### **(8) 上野由紀夫委員 静岡県私学協会理事 浜松学院中学校校長**

実は私学協会で中高生を対象とした県でレシピ・コンテストというのをやっているんです。子供たちが自分たちでメニューを作るということで、明日それが開催されるのですが、必ず子供たちが作ったメニューにあるのが茶を食材としたスイーツだとか、テン普拉だとか、そういうものを作ります。ですので、子供たちは、生徒たちは、お茶というのは郷土の誇りあるものだという意識はうんとあると思うんですが、そこからなかなか愛飲にというと、一歩踏み出さなければいかんということを改めて感じます。

それとさっき茶の都ミュージアムの話しをさせていただいたのですが、本校の行った職員は、家族で行きたいとか、おじいちゃんおばあちゃんが行きたいと言っていたとか、やはり保護者層、お祖父ちゃんお祖母ちゃん層を取り込むのも大きいのかなということを感じました。以上です。

1. 44. 36

#### **(9) 平賀晶子委員 静岡県学校給食栄養士会会長**

ありがとうございました。先ほど、お茶を持ってくることが少ないといったんですが、今は旧浜松市内の学校に勤めておまして、以前、天竜区の方に勤めているときは、もうちょっと持って来る子も多かったですし、お茶に慣れている子も多かったということで、やはり小さいころからのお茶に親しむということがとても大切だなあというふうに思っています。

今回この会議に来るに当たりうちの学校の若い職員に聞いたところ、23歳か24歳ですが、家で急須を使ったことがなくて初めて急須でお茶を淹れたのは5年生の家庭科だったということを今23歳の先生がおっしゃっていたので、5年生の家庭科ではお茶を淹れるところがありますので、やれるんですが、やはりそれだと遅いのかなと思うと、3年生の社会科で地域のことを学んだりする中でちょっと広げたりというふうな工夫を、私だけではできないので、教科の担任の先生等に声をかけて何かできるといいなと思います。ただ今、コロナ禍で調理実習も出来ないような状況で今やっておりますので、徐々にまた正常に戻って行けたら、提案をしてやっていきたいなと感じました。またよろしくお願ひします。

1. 46. 17

#### (10) 土屋裕子委員 日本茶インストラクター

本日はありがとうございました。私は普段、生産の現場にいるんですけども、お茶ほど多様性に富んだものはないと思っています。ものというのは、畑の中で見ているものから飲み物になるまでどの段階でも切り口があって、入って来られるものはないということで、ものと言わせていただいたんですけども。例えばお茶を作るところ、摘むところ、製造するところ、それから葉っぱから飲み物になるまでの段階、どの段階からもお茶というのは学びの場も与えることもできるし、最終的には飲み物になるんですけども、ペットボトルに入っているものだけを飲むとただ清涼飲料水にしかならないんですが、お茶は日常的な中で文化でも歴史でも、それから飲み物としても、どんな角度から見ることができるとおもっています。ですので、教育の現場でもその地域やその学校や先生の観点からいろんな角度で切り込んでいただいて、学びの場を作っていただければ嬉しいなというふうに、私は普段お茶にかかわっているものとして思っております。

このコロナの時代に、コロナの時代が良かったとは決して言えないんですが、お茶の業界にとっては、今日の中でもあったように、かなり追い風になっていることが多いんじゃないかと感じております。さらにこの2年間、コロナの時期をさらに追い風にするために、もう少し今まで飲まなかった人たちに働きかけていくきっかけをコロナの時代に作っていくことができるのではないかと私は思っております。

先日県の方で、先ほど佐々木委員の方からありましたように、コロナのウイルスに対しての効果ということを県の方で講座を開いていただいて、ウェブのセミナーだったんですが、京都府立大学の先生からエビデンスをうかがって、私たちも改めてお茶の可能性を感じたところなんです。そうした機会を教育の現場の方たちにも与えていただいて、私たちから薬事

法に触れるようなことは言えませんので、逆に確かなところからの情報を受けていただいて、それぞれの現場の方たちがそれぞれの感覚でそれを感じていただく。そうしたことで、学校の教育の現場にそれを活かしていただければ嬉しいなというふうに思いました。

すみません、長くなって、提案だったんですけれども、そのセミナーを聞いてすぐに愛飲条例のことを思ったんですね。学校の現場で水筒にお茶を入れていくということで今日も水筒を持っていくという話があったんですけれども、資料3で、学校から父兄の方に出していただいたお便りというか、県のお茶の淹れ方を書いて下さってあるものに、給食の時間に、休み時間などで飲用できるようにというふうになっているんですが、逆にこれを授業の中でも、例えば発表するような、子供たちが発表するような時間があると思うんですね。そうしたときに、発表する前に「誰々君、マスクはずして、発表する前に一口お茶を飲もう」みたいな風に言っていただくと、このあいだのセミナーのお茶の効果としては、口中、口の中のウイルスを抑えることができるということで、裏付けというか、データがはっきりしていますので、マスクを外して、声を出すまえにお茶をひとくち飲むというその大切さみたいなことをどこかの学校で実験的にやっていただいて、それを発信していただいたら「静岡でこんな取り組みを学校からやっているよ」というようなことが全国に広がっていくじゃないかなというふうに思ったりもしました。もしかしたらそのことを知らない学校、教育の現場の方がいらっしゃるようでしたら是非先日の県が主催したコロナウイルスに対してのお茶のカテキンの効果ということを学んでいただくような機会を作っていただいて、教育関係、PTAの方などに、実際に大学の先生からのお話しを聞いていただくような機会を作っていただけたら、逆に私たちがやって下さいというと「お茶を売りたいからでしょう」とか「飲んで欲しいからでしょう」と言われがちなので、実際に感じていただけるといいかなというふうに思いましたので、是非そんな機会を作っていただけたらと思っています。以上です。

1. 52. 17

#### 4 会長による総括

(村松啓至会長)

ありがとうございました。最後、総括をせよという指示がありますけれども、ちょうど時間になりましたので、一言だけお話を申し上げます。県がこれまでやってきた内容については、まず成果を収めて、着実ないろんな動きがありますので、そのへんのところをさらにですね、継続してやっていただける、自信を持って継続してやっていただけるとありがたいと、というふうに、そういう意見が大勢であったなと思います。

しかしですね、特に通年で静岡茶を愛飲する取り組みの拡大に関しましては、保護者の意見とか、インストラクターさんの意見とか、いろんな局面から、それから茶葉の提供とかそういう環境的なものも教えていただきましたので、各地、環境が全然違うんだけれども、そ



の中でその環境をとらえながらしっかりと実践する必要があるじゃないかなということで、思いました。

それから静岡茶の食育の機会の確保のためにということで、いろんな茶の授業とか、ミュージアムでの活動とか、かなり今回この会議で出た内容としては、評価は高かったなというふうに思いますね。そういう点から言って、是非ともいろんな広報、または発信をですね、やっていっていただきたいというふうに思います。

それからあとはいかに習慣化されるかということが3店目、重要だなということを最終的に残って来たなど、水筒とかそれからですね収穫されるためには、家庭の協力また先生方への指導、それから養護教諭への研修の必要性、それから総合的な学習、発表する前に実際にお茶を飲んでという話もありましたけどもね、総合的学習でお茶の学習をやる時結構飲みながらやる時があるんですよ。発表会なんかそういうのをやったりする時もあるんですけども、その辺のところを是非ともお願いしたいと。

それから最後になりますけれども、エビデンスですね、どのようにエビデンスを示していくかというのは、これは事務局がやはりさきほど先生方への紹介というのがありましたけれども、どういうふうに、すべて流せばいいという問題ではないので、何をどうするかというのは、薬事法のこともありますし、その辺のところを考えながら、是非ともまた少し進化させていただけるとありがたい、というふうに思いました。

それですね、私振り返ってみて思うことは、学校現場にいてみますと、私、学校現場にいませんけれども、この5頁の資料、保護者へという資料がございましたね。5頁の資料ですが、体育大会に具体的に活用されたという話も聞きましたけども、これで大きな動きがあったな、つまり保護者とか子供の意識化の中で大きな動きがあったなという、そういう感覚を持っています。

いろんな面でご尽力を皆様にあげましてありがとうございます。いろんなお立場で、いろんな形でですね、子供たちがさらに健康な生活ができるようなそういう環境になっていくといいなと改めて思うところがあります。本日はほんとにありがとうございました。

1. 56. 22

## 5 次回県民会議の日程

すみません。今あわてて言ったものですから一つ落としました。ほんとにご協力いただきありがとうございます。次回の県民会議につきましては令和4年2月ごろでいいかというふうに思いますが、いかがでしょうか。それでは次回、令和4年2月ごろにお集まりいただくということでよろしくお願いをします。

ジュビロ磐田が、全然関係ないですが、昨日、J1復帰、確定しまして、今日嬉しくて嬉しくて仕方なくて、何とか司会をやらせていただきました。大変失礼をいたしました。じゃあ、進行を事務局の方にお返しいたします。ありがとうございました。

1. 57. 25

### Ⅲ 閉会

#### 1 閉会の挨拶 木苗直秀静岡県教育委員会教育長

(司会 遠藤和久)

ありがとうございました。ジュビロはJ1に行きましたけども、清水はJ2に落ちないよ  
うに清水ファンとしては頑張っていたきたいなと思います。

本日は貴重な意見ありがとうございました。村松会長様、円滑な議事進行ありがとうございました。

それでは閉会にあたりまして、木苗教育長から御挨拶申し上げます。

1. 57. 49

(木苗直秀教育長)

今日も熱心な御討論をいただきましてありがとうございました。先ほどジュビロの話が  
出ているんですけども、あの方々がお茶をどのぐらい飲んでいるかというのも調べてみ  
るといいかもしれませんね。あまりにも静岡県、2チームちょっと、元気がなかったもので  
すから、そういう点では、やっぱりあれでお茶を飲んだら良くなりましたと言ったら、皆さ  
ん飲みますよね。何かやっぱりきっかけが必要だと思うんですね。わたくし自身もお茶は毎  
日、10杯ぐらいは飲んでいるんですけども、60年ぐらい病気したことはないですね。70  
年かな。すみません、これ以上言うとも歳がばれますので。

とにかくですね、平成29年度から始まりました静岡茶愛飲の促進について皆さんのご協  
力もいただきながら、茶葉の提供をいただき、そしてまた県内の小中学校でお茶を愛飲する  
機会の提供等がございました。ただいつも言われるのは、市長さん、町長さんと話しをする  
とですね、その代金はどうするんですかと。どうやってやったらいいですか、というよう  
なことも言われますが、その辺は僕はひよっとすると校舎の内側に何かお茶の木をずっと植  
えてそして、少しそういうのもやって、自分たちが作ったお茶で体も良くなるよと、言う風  
な何かストーリーがあってもいいのかなという感じがしましたね。それで今後も各学校に  
おける静岡茶愛飲の取組がさらに継続されていくためには本日も御議論いただいたような、  
まだいくつかの課題があります。そういうようなものも含めてですね、また皆さんと継続し  
ながら静岡県の健康状態をさらに良くする、これ健康状態というのは体だけではなくて精  
神的な意味も含めてですね、そういうようなことでやっていただくといいかなと。静岡県は  
いろいろと気候もそうですけれども、いろいろ海の幸、山の幸にも囲まれていますので、そ  
れを活かして健康な子を育て、そしてまたいろんな点で日本をリードするような、そういう  
ような県にできたらいいかなと、そんなふうに思っております。

ほんとにきょうはご苦勞さまでした。今後ともよろしくお願ひします。ありがとうございました。

## **2 閉会の辞 司会・遠藤和久 経済産業部農業局長**

木苗教育長、ありがとうございました。次回の県民会議につきましては、来年2月ころ開会を予定したいと思ひますので、委員の皆様、よろしくお願ひをいたします。

それでは、以上をもちまして、令和3年度第1回小中学校の児童生徒の静岡茶の愛飲の促進に関する県民会議を閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。

2. 00. 43